

・青森県農協中央会会長賞

お米は生活の一部だから

三厩小学校（外ヶ浜町）

六年 木戸 凜

ALTの先生と一緒に、給食を食べていたときの事です。

「いただきますって、英語では何というんですか。」

ふと気になって、ALTの先生にたずねてみました。すると、
「そういうあいさつは、英語にはないよ。」

と言われました。このとき、アメリカではご飯を食べる前に「いただきます」とあいさつすることはないのだと、初めて知りました。

日本では、毎回食事をする際に「いただきます」とあいさつをします。あいさつをするのが当たり前になりすぎて気づきませんでした。これは日本独自のものなのだそうです。調べると、食事を始める前に「いただきます」というあいさつをすることで、お米をいただくことへの感謝を表していることが分かりました。私は日本の食事が、お米の文化と深く結びついているのだと改めて感じました。

考えてみると、私たちにとってお米は、生活に欠かせない日常の一部となっています。しかし、私は最近「もしお米が食べられなくなったら」と考えてしまうことがあります。その理由は、「稲が枯れて、収穫ができない」というニュースを、昨年よく耳にしたからです。ニュースだけではありません。昨年、私は学校

でバケツ稲を育てました。私の稲は元気に育ちましたが、全部枯れてしまい収穫できなかった友達もいました。その原因は、地球温暖化によるものなのだそうです。地球温暖化と聞くと、世界共通の大きな課題であるというイメージをもちますが、そこにお米のことを絡めて考える人はそう多くはないと感じています。このままだと、みんなが気づく頃にはもう手遅れで、お米が食べられない世界になってしまうのではないかと思います。だから私は、当たり前のようにお米が食べられると思うのではなく、毎日食べられることに感謝し、お米を大切にしていかなければならないと考えるようになりました。

私にとってお米は、家族のつながりを感じさせてくれるものでもあります。毎日の食事で、お母さんが炊いてくれるお米の香りが家中に広がり、夕食の時間が近づくと、お母さんが「いただきます」と声をかけて、家族が集まります。そこには、お米を中心にした団らんの方が広がっています。そんなお米の存在が、私は大好きです。

私たちの日常生活におけるお米の存在は、言葉にできないほど大きいと感じています。朝ご飯を食べて一日の始まりを、夕ご飯を食べて一日の終わりを迎えることが、私たちの日常の一部です。お米は私たちにとって、単なる食べ物ではなく、私たちの文化や伝統、そして生活そのものののだと感じます。だからこそ私は、お米を大切にすることで、私たちの文化や伝統を、これからも守り続けていきたいと思っています。

